

特定非営利活動法人石巻復興支援ネットワーク（やっぺす）

誰もが私らしく輝けるまちをつくるために

市民が支え合い、地域全体で課題を乗り越えていく社会を目指し、企業やNPO、行政などと協働し、仮設住宅の住民のコミュニティ形成支援や女性の活躍推進、子育て支援など幅広いプロジェクトを展開している。

取組のPOINT

ヒト 多文化共生の理念に共感

着眼点 女性と高齢者の自立を支援

連携・協働 強力なネットワークを構築

持続性 担い手を生み出す好循環

DATA

取組主体 特定非営利活動法人
石巻復興支援ネットワーク

取組内容 女性活躍の推進・子育て支援

人物紹介

代表理事 兼子 佳恵（かねこ よしえ）

宮城県石巻市出身。1999年子ども対象の環境教育活動支援や子育ての悩みを聞く活動を始める。2009年「環境と子どもを考える会」と改称。2011年特定非営利活動法人石巻復興支援ネットワークを設立。2018年「平成29年度ふるさとづくり大賞内閣総理大臣賞」、2020年「女性のチャレンジ支援賞」などを受賞。



ヒト 多文化共生の理念に共感

子育てに悩む母親

代表理事を務める兼子佳恵さんは、かつて子育てに悩んでいたことがきっかけになり、母親同士が気軽に相談できる場を作るため、2000年に「イツ・ナウ・オア・ネバー」（2009年に「環境と子どもを考える会」に改称）を立ち上げた。

活動を通じて、子どもを地域全体で見守りながら、のびのび遊ばせる環境づくりの大切さを知った。そして、子どもが思い通りに育たなかったときでも自分を責めず、ポジティブに考えることや、親が元気でなければ、子どもも元気になることの重要性を痛感した。

一方、多文化共生に関する講座を受講し、「人と人を隔てるさまざまな壁を越え、お互いを尊重し合える社会」を構築するダイバーシティの理念が、子育て環境を考える上で共通していることや、災害時における自助・共助・公助の連携を

考えたときにも重要であることを学んだ。こうした経験が、東日本大震災後の団体設立へとつながっていく。

石巻のために「やっぺす」

宮城県石巻市は、震災によって広い範囲にわたって津波が押し寄せた。兼子さんの自宅も浸水被害を受け、3日間外出することができない状態だった。ようやく外に出ることができて、初めて目にした被害の大きさや、後に友人や知人、その家族が亡くなったということを知り、「被災した石巻の力になりたい」と強く感じたという。

しかし、震災直後は地元の人が活動できる場が少なかったり、ボランティアの情報を得るためには子どもを置いて遠くの会場まで足を運ぶ必要があったりと、さまざまな壁が立ちはだかった。そこで、「環境と子どもを考える会」の仲間と



起業を目指す女性がホームページの作り方や写真の撮り方などを学んだ



顕彰式には、復興公営住宅の住民も祝福に駆け付けた



手づくりアクセサリブランド「Amanecer」

共に、支援団体を立ち上げることにした。団体設立は、「被災者をNPOとつないで支える合同プロジェクト」と共同で行い、メンバー自身も被災者であることから、仕事の創出につなげるためNPO法人化を決めた。

愛称には、石巻の方言で、「一緒にやりましょう」を意味する「やっぺす」を採用。被災者同士が同じ目線で寄り添い合うことを大切にしたいという思いを込めた。

着眼点

女性と高齢者の自立を支援

生き生きとしたコミュニティを形成

「震災前から、子育てのしづらさや女性の就労の難しさ、女性活躍のハードルの高さを感じていました」と兼子さん。同時に、一部の人がだけがまちづくりに参加する雰囲気があると思っていた。そこでNPOの活動では、これまで出番が少なかった地域の女性や若者、高齢者にスポットライトを当て、誰もが自分らしく生きることを叶えられるまちを目指そうと考え、これまでに「復興支援」「女性の活躍推進」「子育て支援」を柱に、多彩なプロジェクトを展開してきた。

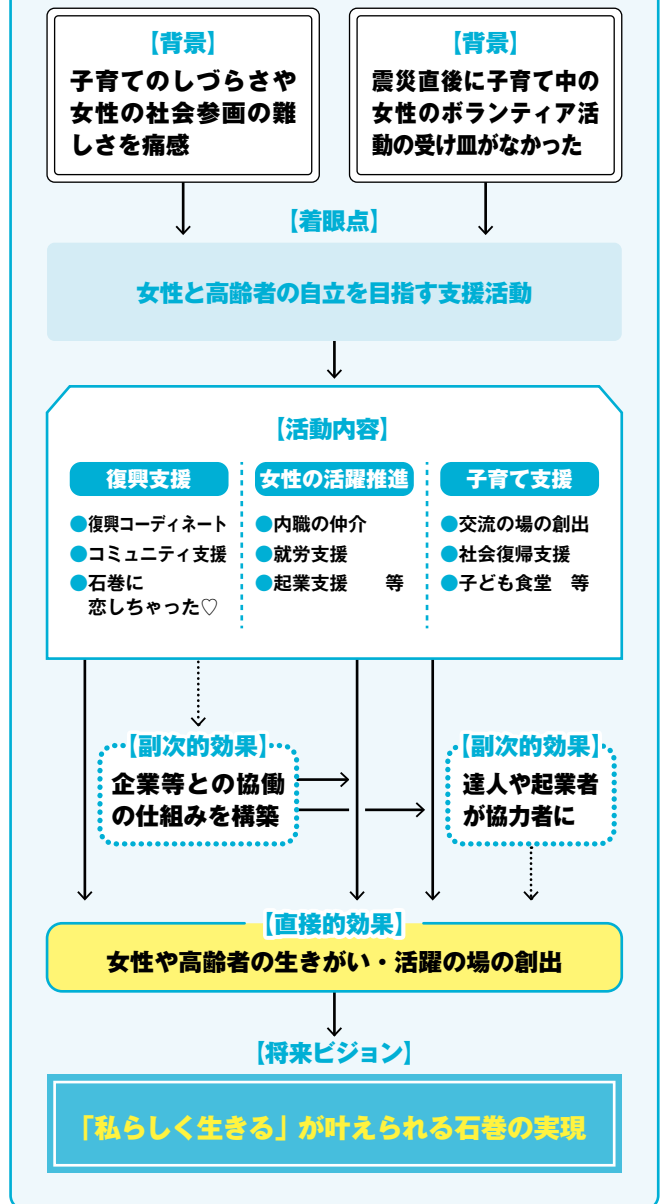
復興支援分野では、震災直後から仮設住宅でのサロン活動を中心としたコミュニティ形成支援を行った。仮設住宅からの転居が進むと、支援の舞台を復興公営住宅に移し、コミュニティが再度分断されることによる住民の孤立防止に努めた。

2013年からは、石巻市と周辺地域で体験プログラムを行う「石巻に恋しちゃった♡」がスタート。地域に住むさまざまな趣味や特技を持つ「達人」を発掘し、講師を務めてもらっている。地域内外の人が交流することで、コミュニティの強化を目指した。

女性の社会参画を後押し

女性の活躍推進分野では、内職の仲介や就労支援、起業支援など、ライフステージに応じた支援活動を展開。2012年

誰もが私らしく輝けるまちをつくるために



に立ち上げたアクセサリブランド「Amanecer」は、アクセサリの製作販売を通じて、母親たちのコミュニティを構築するとともに、無理なく社会参画ができる機会を提供している。

また、ワークショップや相談会の開催、事業のスタートアップ施設の提供など、起業を目指す女性を多方面から支援し、復興の担い手の発掘と育成に取り組んでいる。

子育て支援分野では、子育てしやすいまちの実現に向けた環境整備に取り組む。2016年に実施した「ママのわスクール」では、食育講座やコミュニケーション、パソコンなどの講座での交流を通じて、子育てへの不安や悩みを共有する場を提供した。

2019年には、子育て中の女性の社会復帰を支援するため、託児付きのセミナーや企業説明会、インターンシップなどを

開催。「出産や育児による孤立を解消し、自らの希望を実現してもらうことで、女性の力を地域づくりに生かしたい」と兼子さんは語る。

連携・協働 強力なネットワークを構築

地域外からの支援で成長

「やっぺす」では、震災直後から支援や視察を希望する企業、NPO、大学と、現地のニーズをマッチングする復興コーディネート事業にも取り組んできており、そこで築き上げた信頼関係から、その後のプロジェクトにおける連携・協働のネットワークが生まれている。Amanecerのプロジェクトでは、関西でアクセサリづくりとオンライン販売を手掛けるショップから、技術指導をはじめデザインの提供、ブランドのネーミング、ネットショップ立ち上げまで全面的な協力を得た。

また、製粉メーカーが支援した「パン教室」では、同社が提供した小麦粉以外にも、地元水産加工会社がたらこを提供。教室には、たらこを提供した企業の社長夫妻も参加し、一緒にパンづくりを楽しんだ。

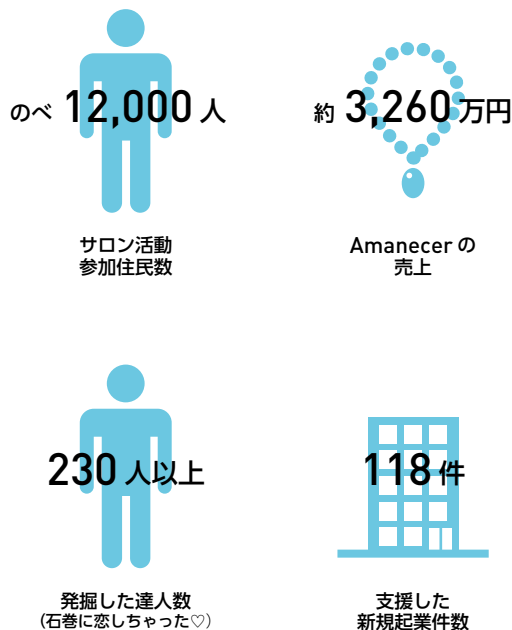
このほか、ぬいぐるみメーカーと共同開発した子ども向け防災リュックの商品化や、化粧品会社の支援による女性人材育成プログラムの実施など、さまざまなプロジェクトが誕生している。

心強い地域住民の協力

地域内での連携も活発で、就労支援や子育て支援、子ども支援などに取り組むNPOなどの団体が、子育て中の女性の就労支援やインターンシップの受け入れなどのプロジェクトに協力した。また、子育て支援活動で使用する会場も、町内会や復興住宅団地会の協力で集会所を利用することができ、幅広い地域で展開できたという。

さらには「石巻に恋しちゃった♡」での達人認定がきっかけ

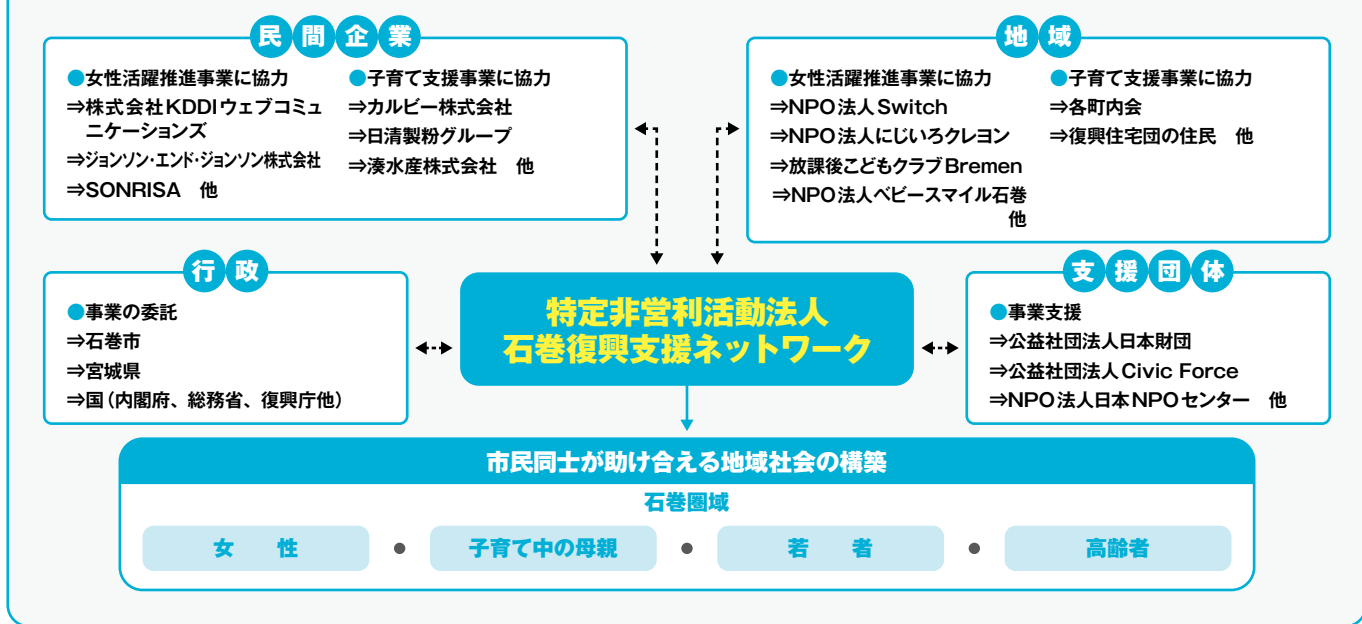
■「やっぺす」の活動の成果（2020年3月現在）



- 1 復興公営住宅でのサロン活動の様子
- 2 就労支援事業に参加する女性
- 3 監修に携わった防災リュック
- 4 復興公営住宅の集会所で行われた男性向けの料理教室

COLLECTIVE IMPACT コレクティブ・インパクト

プロジェクトの連携・協働の図



けとなり、ほかのプロジェクトへの協力を引き受けてくれた住民もいたり、地元から講師を招いてワークショップやセミナーを開催したこともあった。石巻で活躍するさまざまな人や団体との協働が実現し、地域の課題を地域の力で解決する地域づくりの理想形に近づいたと手応えを感じている。

持続性

担い手を生み出す好循環

スクール修了生たちの活躍に期待

「誰もが自分らしく生きることを叶えられるまちを目指す」という理念に共感し集まったスタッフも、これまでの支援活動を通して自らの活躍の場を見つけることができた。中には、独立して地域づくりに取り組むスタッフもいる。さらに、起業支援や人材育成のプロジェクトに参加し、地域で活躍する住民も増えている。こうした人材が「やっぺす」の心強いパートナーとなることで、事業の担い手の循環が生まれると期待している。

2019年には、コーチングのコーチの養成、2020年には、メンタルヘルスアドバイザー講習会を実施し、10人の女性がアドバイザーの認定を受けた。「今もなお、仕事や子育てのストレスに悩む女性は多い。こうした心のケアが必要な女性を支援する人材の育成にこれからも努めたい」と兼子さんは語った。

石巻の住民力を支え続ける

2020年2月に仙台市内で開催された「新しい東北」復興・

創生顕彰式には、復興公営住宅の住民も参加した。活動の出発点とも言える住民に光を当ててほしいとの思いからである。スピーチの中で「この賞は、この会場にバスで朝早くから駆けつけてくれた、住民の皆さんと一緒にいただいた賞だと思っています」と語り、住民と喜びを共有した。震災直後まで、石巻に住む一市民だった兼子さん。「そんな私でも、仲間と力を合わせれば、地域を元気にすることができる石巻の住民力を証明することができた」と笑顔で話す。

間もなく震災から10年を迎える。これから先の10年は、復興の次のステージに向かって歩んでいきたいという。そのため、「復興支援」を掲げたNPO法人の名称を「やっぺす」に改称する検討も進めているそうだ。時代が変わっても、設立当時の理念は変わらない。これからも「私らしく生きる」が叶えられる地域づくりに全身全霊を捧げる。

本事例の問い合わせ先

特定非営利活動法人
石巻復興支援ネットワーク
宮城県石巻市開北3-1-8
TEL : 0225-23-8588
HP : <https://www.yappesu.jp>



女性の自立と社会参画を推進するため、ビジネススキル支援、職業紹介、創業支援、子育て支援など多様な側面からサポート。「私らしく生きる」を叶えられるまち・石巻を目指す。

